

法人：A社

労働者数：約1,100人（連結）

主な荷：住宅建材等

ドライバーが毎日家に帰れる就労環境の実現に向けて取組を推進

1 長時間労働を前提とした長距離チャーター便から撤退し、「クロスドックチェーン」へ

A社は採用している中継輸送の方式を「クロスシステム」と呼び、また同中継輸送を繋ぎ合わせて長距離を運ぶ新たな輸送システムを構築し、「クロスドックチェーン」と名付けて特許を取得、実用新案も登録している。また、同中継輸送の方式は、F社（事例No.6：1ページ参照）にも提案し、工場間輸送に採用されている。

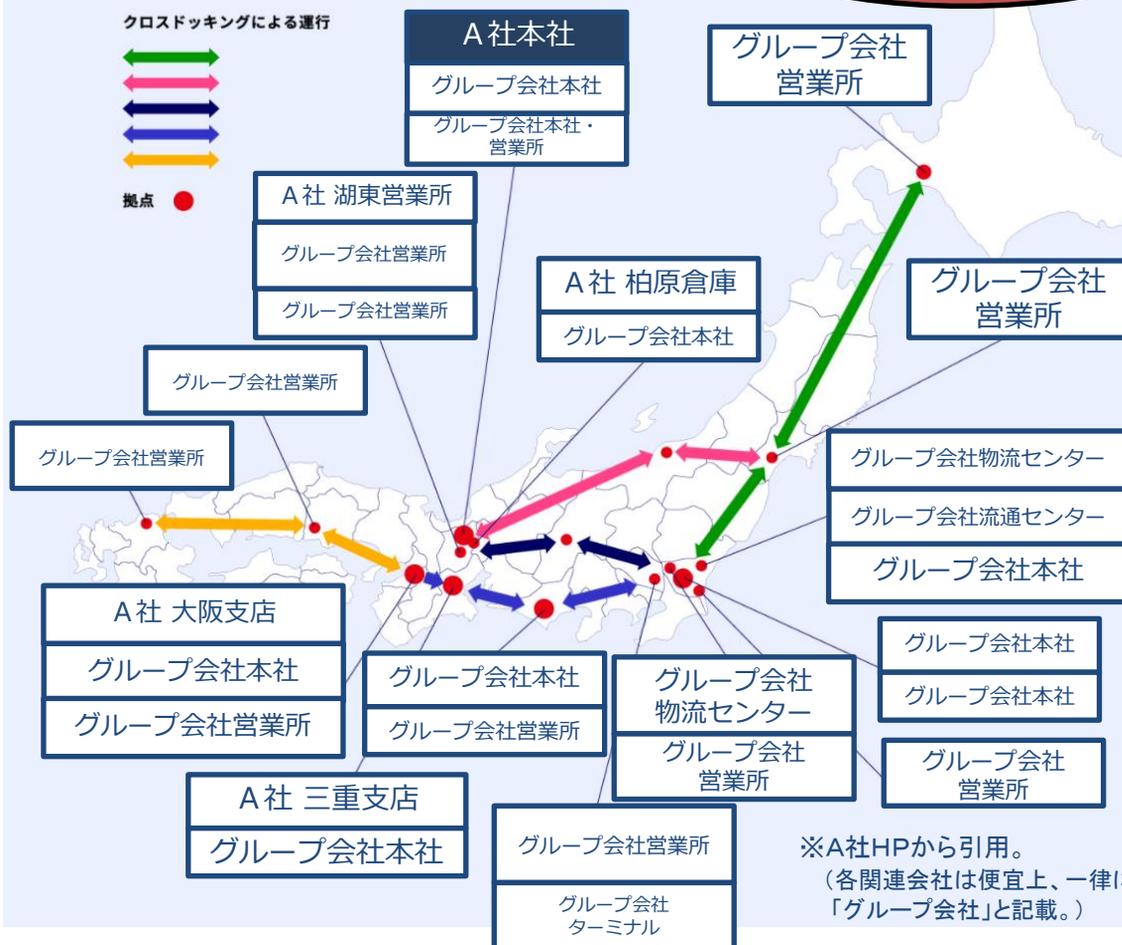
北海道から九州を各中継地につなぐ

クロスドックチェーン

クロスドッキングによる運行



拠点 ●



初期に大規模な投資を必要とする等課題も多かったが、ドライバーが毎日家に帰れる就労環境実現のため、トップが英断！

※A社HPから引用。
（各関連会社は便宜上、一律に「グループ会社」と記載。）

<中継輸送の例>

← 関東～近畿

- ◆1人のドライバーが2日や3日を掛けて荷を輸送する長距離便と異なり、中継地までの輸送に留まることから、ドライバーは毎日自宅に帰れる。



流通業務の総合化・効率化を図る事業として、流通業務総合効率化事業に認定！

※上図はA社HPから引用。

2 中継輸送はトレーラー・トラクター方式を採用

中継輸送には、同じ車両でドライバーが交代する方式や、荷を積み替える方式もあるが、前者は同じ車両を回し乗りすることに嫌悪感を示すドライバーが多いこと、後者は荷を積み替える際の不良が発生する可能性や荷役作業に取られる時間分労働時間が長くなる可能性があるため、A社ではトレーラー・トラクター方式を採用している。トレーラー・トラクター方式では中継地での作業時間は短時間で終わる。

